【研究論文】

学生が主体的に学ぶ就学前教育における手遊び歌・音楽遊び
―小学校スタートカリキュラムでも使える遊び―

岩　瀬　由　佳

Hand game song and musical play in the pre-school education a student learns autonomously
－The play even an elementary school start curriculum can use－

Yuka IWASE

はじめに

就学前の施設、すなわち保育所・認定こども園・幼稚園において、手遊び歌や音楽遊びが重要な役割を占めていると考える。朝や帰りのお集まりであったり、昼食やおやつを食べる時であったり、お話を聞く時であったりと単純にその遊びを楽しむこともあれば、行動を伴う時に使われる。その場に応じ、その子どもたちに合う手遊び歌をすぐにできる保育士・教諭は、子どもたちの把握や保育がストレス少なくでき、園活動がスムーズにできていると言っても過言ではないと思われる。

さらに、平成30年度施行の幼稚園教育要領では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を10項目明確化した。このことにより、幼児教育と小学校教育の接続の一層の強化が図られた。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、５歳児終了の子どもの姿を、幼稚園等教員と小学校教員の共有化を目指すものである。それにより、小学校教員は、入学した児童が就学前教育で身に付けたことを生かしながら、教科等への学びとつなげられる。それは、生活科を中心とした、スタートカリキュラムで幼稚園等から小学校への円滑な接続へとつながる。

そのスタートカリキュラムでは、様々な内容が実施されている。その中で、仙台市立広瀬小学校のスタートカリキュラム(1)では、入学後１週間の集合の際や教科の始まりなどに手遊びを使用している。これは、就学前の施設で使用される手遊びを活用していると考えられる。小学校区によっては、様々な幼稚園・認定こども園・保育所から入学してくることや、幼稚園、特に保育所と小学校では時間の流れが違うなど、少しでもスムーズに活動できるためであろう。

このように、就学前施設や小学校で使われる手遊び歌・音楽遊びを、実習や就職した現場で子どもが惹きつけられるような表現になるために、授業において学ぶこととしている。

また、実際に学生自らが生き生きと表現できるためには、主体的に手遊び・音楽遊びができるようにするための方法を考える。

なお、「手遊び歌」や「音楽遊び」の定義は、辞書や音楽事典での登録は該当するものが見当たらない。そこで、本研究では、手遊び歌の定義を「主に手などを使い、歌いながら遊ぶことが出来る歌のこと。また、数の認識や言葉を理解し、スキンシップを伴う歌のこと。」とする。そして、音楽遊びの定義を「歌や音楽を使った遊び。音楽を使って友達と触れ合う遊び。」とする。

1　新幼稚園教育要領及び、新小学校学習指導要領について

1－1　これからの就学前教育がねらうもの

平成30年度から早速、新幼稚園教育要領及び新幼保連携型認定こども園教育・保育要領、さらに保育所保育指針が実施される。その中で、幼稚園教育要領において、新しい項目の内容と、小学校との接続の部分において重要な要素となるものについて挙げる。

幼稚園教育において育みたい資質・能力について、文部科学省では、平成29年度告示教育要領において、生きる力の基礎を育むために、幼稚園教育の基本を踏まえ、次の資質・能力を育むように幼稚園教育要領総則第１章第２の１に記載されている。

> ⑴　豊かな体験を通じて、感じたり、気づいたり、わかったり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」
> ⑵　気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」
> ⑶　心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」(2)

この育みたい資質・能力は、５領域のねらい及び内容の遊びを通して一体的に育んでいくことが重要である。

さらに、文部科学省は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、新幼稚園教育要領において明記している。これは、幼稚園教育要領総則第１章第２の２に記載されている。５領域の「ねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園終了時の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮するものである」(3)

> ⑴　健康な心と体
> ⑵　自立心
> ⑶　協同性
> ⑷　道徳性・規範意識の芽生え
> ⑸　社会生活との関わり

⑹　思考力の芽生え
⑺　自然との関わり・生命尊重
⑻　数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
⑼　言葉による伝え合い
⑽　豊かな感性と表現

この10の項目を教育要領ではっきり示すことによって、幼稚園等教員と小学校教員の５歳児修了時の姿が共有化され、幼児教育と小学校教育の滑らかな接続が図られることになる。手遊び歌・音楽遊びをすることによって、この10の項目のうち、次の項目が養われるのではないかと考える。

「⑶協同性」は、友達と一緒にスキンシップをしながら遊ぶことや協力して遊ぶことで、養われると考える。

「⑹思考力の芽生え」は、ゲーム性のある手遊び歌音楽遊びでは、考えることで楽しさが膨らみ、工夫しようとすることから養われると考える。

「⑻数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」では、手遊び歌には、たくさんの数遊びの歌がある。これら歌から数量や図形について、遊びながら歌いながら習得していくであろう。

「⑼言葉による伝え合い」は、歌は、「言葉」である。言葉遊びの歌も豊富である。また、遊んだことにより、思ったことを伝える活動が考えられる。このことから、言葉による伝え合いも養われると思われる。

「⑽豊かな感性と表現」は、遊びながら歌いながら表現できるのが手遊び歌・音楽遊びである。様々な遊び歌を通して、様々な楽しさを知り、様々な表現ができる。このことが豊かな感性を培うと考える。

このように、手遊び歌・音楽遊びは、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を育成するために、有効な手段の一つであると考える。

１－２　小学校学習指導要領から見る幼児教育との接続について

文部科学省平成29年３月告示の小学校学習指導要領においても、就学前の施設との接続について明記されている。第１章総則　第２教育課程の編成　４学校段階等間の接続において、「教育課程の編成に当たっては、次の事項に配慮しながら、学校段階等間の接続を図るものとする。」(4)とある。さらに、遊びにかかわることとしての内容も明記されている。

⑴　幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し

生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。(下線は筆者)(5)

以上のように、小学校入学時において、就学前の遊び通して育まれたことを生かして、各教科の学びにつなげることを明確化している。

「はじめに」のスタートカリキュラムで述べたように、小学校入学時の児童には戸惑いや不安が強いために、安心して小学校生活をスタートさせることが大切である。円滑なスタートのためには、就学前教育で行っていたことを小学校でも取り組むのが一つの方法である。そこで、手遊び歌や音楽遊びを登校後の朝の会や授業の最初で取り入れると、ゲーム感覚で楽しみながら小学校生活を進めることが出来るのではないだろうか。小学校教員も、そういう技を磨くことで、遊びを取り入れた学びへとつなげることが出来るのだと考える。

そこで、その中でそれぞれの活動の主活動であったり、活動間のつなぎであったりで重要な流れをつくる「手遊び歌」「音楽遊び」を学生の技術を高めるために、授業に位置づけた。学生が自身でどうしたら子どもたちが興味を持つか、それぞれの工夫や表現の技術を授業を通して磨くこととする。

2　手遊び歌・音楽遊びの指導計画について

現在、「基礎音楽」の授業内で、手遊び・音楽遊びの指導を行っている。そこで、どのように計画・実施しているかを挙げる。

2-1　「基礎音楽」到達目標

到達目標として、次の6点を挙げている。

①リズムを理解し、楽しむことができる。
②音程を正しくとることができる。
③ハーモニーの感得・理解をする。
④読譜力をつける。
⑤他と協調して表現する楽しさや能力を高める。
⑥手遊び歌を通して、相手に伝わるための表現力を高める。

この目標の中で、手遊び歌に関係があるのは、⑤の「他と協調して表現する楽しさや能力を高める」と、⑥の「手遊び歌を通して、相手に伝わるための表現力を高める」である。

⑤は、独りよがりな表現にならぬようペアの相手と合わせて、表現することを目指す。⑥は、聴いている人が楽しいと感じるように伝えるため、どのように表現すればいいかについて考え、表現することを目指す。

2－2　シラバス

基礎音楽の授業計画として次のように挙げている。

第１回	オリエンテーション 拍、リズムの理解・体得１　**手遊び歌・音楽遊び①**
第２回	音程、拍、リズムの理解・体得２　コールユーブンゲン歌唱 **音楽遊び表現の留意点**　　**手遊び歌・音楽遊び②**
第３回	程、拍、リズムの理解・体得　３　コールユーブンゲン歌唱 **音楽遊び歌の発表開始　手遊び歌・音楽遊び③**
第４回	**手遊び歌・音楽遊び④**　コールユーブンゲン歌唱　和音聴音　ノートの書き方
第５回	**手遊び歌・音楽遊び⑤**　　和音聴音　　コールユーブンゲン歌唱
第６回	**手遊び歌・音楽遊び⑥**　和音聴音・記譜　　コールユーブンゲン歌唱
第７回	**手遊び歌・音楽遊び⑦**　　コールユーブンゲン歌唱
第８回	**手遊び歌・音楽遊び⑧**　移動ドについて　階名唱　コールユーブンゲン歌唱
第９回	音程、拍、リズムの理解・体得４　コールユーブンゲン歌唱 **手遊び歌・音楽遊び⑨**　　全音と半音の理解
第10回	音程、拍、リズムの理解・体得５　**音手遊び歌・音楽遊び⑩**　発声
第11回	音程、拍、リズムの理解・体得６　**手遊び歌・音楽遊び⑪** コールユーブンゲン歌唱　　発声について
第12回	**手遊び歌・音楽遊び⑫（発表終了）** コールユーブンゲン歌唱　　鍵盤ハーモニカ遊び①
第13回	鍵盤ハーモニカ遊び②
第14回	鑑賞　　歌唱指導
第15回	歌唱指導　　復習とまとめ

このように、手遊び歌・音楽遊びの発表や学びを15回中12回予定している。これは、各自１回の発表で終わらせるのではなく、１回目の反省を踏まえ、２回発表するために設定している。１回だけの発表では、「終わった」「失敗した」「もう少し顔を挙げればよかった」「声が震えた」などの反省だけで終わってしまう。しかも、他の学生の発表を見ることによって、見る目が養われる。そういう観点からも、２回目の発表の機会があることで、２回目の教材の工夫や、表現の仕方を改善しようと学生自身が頑張ろうとすると考える。

2－3　授業方法

授業の方法について、次の内容を学生に周知している。

１　全員で歌う、ペアで表現する、一人で歌うなど様々な形態で、演習を主体にすす

める。
2　人前で表現することに慣れるためにも、各自で練習してきた内容を発表する。
※提出物には、コメントを書いて授業前に返却する。
※アンサンブル表現は、表現を録画し、その場で振り返りを行う。
※「コールユーブンゲン」歌唱は、一人ずつ毎回チェックし、指導や称賛を行う。

特に、「2　人前で表現することに慣れるためにも、各自で練習してきた内容を発表する。」では、1年生前期の授業であるために、アンサンブル表現をすることを設定している内容である。学生は、今後、実習や様々な授業で発表する機会や必要がある。堂々と子どもの前で笑顔と共に話すだけではなく、表現をしなくてはならない。そのため、この時期の人前の表現発表が必要である。前期に人前で発表することに慣れておくこと。今後の授業での発表で苦痛に感じることが軽減すると考える。なお、「アンサンブル表現」とは、手遊び歌や音楽遊びをペアで表現することをさす。

また、「コールユーブンゲン歌唱は、一人ずつチェックする」とは、歌唱テストをして音程やリズムや声の出し方について指導をするという内容である。この、「コールユーブンゲン」のテストをすることによって、手遊び歌や音楽遊びをする上で、音程やリズムが正しく歌えるようになったり、声が聴いている人に届くようになったりするなど、基礎的な能力を養う。

3　手遊び歌・音楽遊びの指導内容

指導に当たって、大きく3つに分けられる。

1つ目は、表現曲を選択したり練習をしたりする前に、全体でどのようなことに気を付けて発表したらいいかの確認をする。学生に、領域別に重要なポイントを考えさせながら、留意点を挙げさせる。

2つ目は、発表を全員で見て、表現をするに当たってのポイントと照らし、発表者はそれをふまえた発表をし、参観者はそのポイントを基に、良い点良くない点をノートなどに記述する。

3つ目は、発表している様子をビデオに録画し、発表後すぐに確認をして良い点や悪い点を確認し、指導者が講評をする。

この3つの点について、詳しく次に述べる。

3－1　表現発表に当たっての留意点

手遊び歌・音楽遊びを発表するにあたって、実践や鑑賞の留意点を最初に学生と共に考える。発表するにあたって、留意点をふまえながら練習に取り組むことが出来る。仲間の発表を見る際にも、どういう点に気を付けて鑑賞すればいいかがわかる。

学生と共に考えた留意点は次のとおりである。

顔	歌声・話し方		動作・振り付け
・表情（笑顔） ・視線	・声量 ・音程 ・リズム ・強弱	・発音 ・声色 ・テンポ ・高さ	・大きさ ・見えやすさ ・姿勢

なお、選曲にあたっては、他の発表者が発表した手遊び歌や音楽遊びは、発表できないこととした。様々な曲を皆で知ることを目的とするためである。

このことにより、学生は、自分が知らない曲も楽譜や本を見て探そうとする。また、どういう手遊び歌や音楽遊びを発表すると、見ている人聴いている人が、楽しめるかがわかるようになり、２回目の発表の際には、自分が発表したい曲だけでなく、発表のために効果的な選曲を考えるようになる。

３－２　参観者の気づき

発表の最初の頃は、「表情」が笑顔であるかが学生にとってポイントになっていた。それが、２回目の発表になると、その曲に応じた表情や声色を工夫するようになった。学生の振り返りのノート記述も、１回目では、「緊張して、笑顔になれなかった」など、表情に関する内容が多く見られた。

次に、「視線」についての表記が多く見られた。参観者は、自分たちが子どもになったつもりで見ているため、視線が自分たちを見ていなかったり、全体を見ていなかったり、一点しか見ていなかったりすると、気になるようである。確かに、発表をしていて、顔を上げきれず下ばかりを向いて発表している学生は、楽しくなさそうであった。

「声」については、なかなか気づかない学生が多かった。声量がある学生の発表により、「歌声」が大切なことに気付くことができた。まずは、声量が足りなかったのである。その後、「声色」への気づきへと発展していった。

４　ビデオでの振り返り

発表をビデオに録画し、その後全員で振り返りを行った。発表直後に全員ですることにより、本人及び全員が表現に関する確認ができた。

まず、発表に当たっての表現に関する内容で、学生に指導を多くした内容について挙げる。

４－１　表現における歌以外の指導

①表情（笑顔）

笑顔であることが、表現をすることにおいてとても大切である。そのことにより、見ている人や子どもたちは安心するという指導をする。しかし、照れからくる笑いは、見ている方が興ざめするためにそれはしてはならないことを指導する。この照れ笑いは、最初の

頃に多く見られる。しかし、学生間で照れ笑いはみっともないことが自分たちで分かってくるようになる。特に、ビデオで振り返ることによって、自身でも気づかなかった表情に気付く。自分では、笑っているつもりが、笑えていなかったなどに気付くことが出来る。

さらに、曲によっては、歌詞を理解し、笑いだけでなく曲に合った表情を見せることが、見ている人にとって興味を持つこともあることを指導する。

②視線

１回目の発表では、緊張が強く、多くの学生が視線を上げられず全体を見ることが出来ない。そのため、学生間でも「自分たちの方を見てない」「下を向いているから、暗い印象がある」という指摘があった。

緊張する学生で、見られていることに対してかなり緊張する場合には、具体的にどこを見て発表すればいいかということを指導した。さらに、視線が下がることによって音も下がるので、そのためにも、視線を挙げることを指導する。

ビデオを正面や横から録画することで、視線の向きがはっきりする。そこで、自分の視線が同一方向ばかり向いていることなどを認識することが出来る。

③手の動き

指先までの気配りをすることで、何を表現したいかがわかるようになってくる。例えば、卵を持っているはずなのに、激しく動かすと、卵は割れる。などである。さらに、表現の最後に、音がするほど腕を下げるとそれまでの表現が台無しになる。最後まで、気を配って表現することが大切である。

また、ビデオを確認することで、再度理解が出来る。例えば、表現が良かった学生については、肘が伸びているからよかったのか、指先に視線が行っているから動きがきれいに見えて良かったのか、などの確認が出来る。

４－２　表現における歌の指導

歌い方の指導について述べる。楽譜のとおりに歌えていない学生が多く見られた。項目別に具体的に説明する。

①テンポについて

ほとんどの楽譜には、速度記号が明記されている。自分が知っていると思い込んでいるテンポで表現すると、遅すぎたり速すぎたりしている。楽しいリズミカルな曲が遅いと、その曲の良さが失われてしまう。

②音程について

自分の覚えている音程で歌ってしまう学生が多い。楽譜も様々な楽譜があるため、確認することを勧める。音程がいい加減であると、子どもが認識できず、適当に歌ってしまうことになり、その曲の持つ良さが失われ、結果的につまらない曲になってしまう。音程が怪しかったり明らかに間違えたりしている場合には、発表後に全員で歌って確認をする。

③リズムについて

音程と同様に、自分が覚えている適当なリズムで歌っていることが多い。楽譜をしっか

り確認せず、ひどいときには、全く違うリズムで歌っている。リズムが大切な手遊び歌が、いい加減にならぬように、楽譜を見直し、全員で確認のために歌う。同じ曲名や歌詞でリズムが違うものもある。それは、口伝えで変化している曲もあるため、楽譜を確認し、自分はどれでやりたいのか、目の前の子どもにはどれが適しているのかを考慮して選曲するように指導する。

④拍子について

「③のリズム」と同様に、拍子が適当になると、いい加減な歌になってしまうために、楽譜を確認して歌うことを指導する。

⑤声色

「自分ではやっているつもり」がビデオで振り返ることで、はっきり、できていないこと、伝わらないことがわかる。特に、声色はビデオで分かりやすく、声色に関しては、歌詞を理解し、役者になりきって表現しなければ、聴いている人に伝わらないのである。

⑥表現の工夫について（アゴーギグ等）

アゴーギグなどのテンポの緩急などは、楽譜にアッチェレランド accel.やリタルダンド rit.やア　テンポ a tempo などが表記されている。それらを表現することで、手遊び歌や音楽遊びももっと魅力的なると指導する。さらに、歌詞によって間を置いたり、強弱を変えたりするなどで、もっとその手遊び歌や音楽遊びが楽しくなり、聴いている子どもたちを惹きつけることが出来るようになる。

5　手遊び歌・音楽遊び歌に関する学生の気づき

発表した後の学生の感想や気づき、及び他の受講学生の発表の気付きを学生の声を基に述べる。

①ビデオでの振り返り

・ビデオを見て振り返るのは、とても恥ずかしく思えたけど、自分の改善点がよくわかりました。動きを大きく見せることは大切だけど、歌詞に合うような振り付けにしなければならないことを学びました。
・ビデオを見ることで、自分が出来ていない所や苦手なところにも気が付けるので、この授業での発表経験は私にとって、とても大きな糧となります。
・最初の発表で実際に手遊びしている姿をビデオで見て、やっている本人は気が付けない部分がたくさんあることを知りました。だから、ビデオで振り返る作業はすごく大切だと感じました。自分が思っている以上に声を出し、身振りを大きくして、笑顔でやらなければ相手には伝わらないということを学びました。
・録画したのを見ると、自分は笑っているつもりでもそんな笑えていなかったり説明するときの声が低すぎたり、動作の中で手がぶらぶらしすぎていたりなど、色々気付いて訂正できます。だから、録画して振り返るのは、とてもいい方法だと思いました。
・ビデオを見て振り返ることで、１回では気が付くことが出来ないことも、気づくことが

出来、先生が言われたこともすぐに確認が出来るので、一つ一つに注意して次回につなげたいと思います。

②選曲

・セリフがある音楽遊びは、実際に保育園の先生や子どもたちに名前を変えて一緒に遊んでみたら、盛り上がると思うし、アレンジがしやすくて、見ている方が楽しめると思います。私は、子どもたちが笑顔になれる音楽遊びをたくさんしたいので、セリフが途中に挟まれている音楽遊びのレパートリーを自分の中でいっぱい持っておきたいと思います。

・Ａさんの音楽遊びは、全体で遊んだりするときや、初対面の人との交流とかでやってみたら楽しそうだなあと、想像が膨らみました。

・歌の中で、先生や友達とのスキンシップがあると、なんだか安心するし、笑顔も増えると思いました。今日の遊びは、「何かされるのではないか」とぞくぞくする感じがして、子どもが喜びそうだと思いました。触れ合いが出来る歌をたくさん覚えていきたいです。

・「大きな畑」と「山小屋いっけん」の手遊び歌が、先生に教えてもらった歌と似ていたので、似たような手遊び歌があるんだと思いました。だから、たくさんの本を見て探したいと思います。

・同じ曲でも、資料（教材）がいくつかあることを聞いたので、色々なやり方を覚えていきたいと思います。

③声・歌い方

・Ｂペアの二人は、高音が響いていてとても美しかった。

・歌っているのだけど、話しかけているような歌い方が良かったので、自分も是非できるようになりたいです。

・歌詞一つ一つに感情をこめて歌っているので、子どもたちもきっと楽しめるだろうなと思いました。

・Ｃペアの二人は、二人とも声の高さなどが落ち着いていて、聴いていると安心する感じがとてもよかったです。

・Ｄさんの歌声に圧倒されて、口が開きました。また、隣で歌っていたＥさんも負けずに歌えていて、凄かったです。

・Ｆさんの声が凄く素敵だなあ。凄いなあ。と思いました。誰にでも聞き取りやすくて、凄く通る声でうらやましいと思います。声は人それぞれ違うので、すぐに変えることはできないけれど、少しでも素敵な歌声の人を見て、その声に近づけることが出来たらと思います。また、今回のテストで、声色を変えるということは、かなり人を惹きつけるんだなということを実感しました。

・Ｇさんの声は、とても心地よい声で、きっと子どもたちも聞き取りやすくていいだろうなと思いました。

・「キャベツの中から」では、赤ちゃんの所だけ表現を変えたので少し不自然に感じました。他の登場人物の声色も変えるなど工夫を入れた方がいいと思いました。

・今日の発表で全体的にもう少しだった点は、歌声の強弱・声色・高さだったと思いました。そこを意識していけば、もっとより良い音楽遊びになると思います。
・発表する歌の音程が最初全然取れなくて、ペアの人とピアノを使いながら練習してきました。その成果で、本番は音程がとれていたと思います。

④表情

・皆の発表を見て一番良かったのが「笑顔」です。笑顔から、子どもへの愛情や優しさが伝わってきました。
・ほとんどの人が、発表の時に笑顔で、受ける印象は良かったです。
・みんな笑顔で手遊びをしている姿を見て、凄いなと思いました。
・Ｈさんのように、表情に変化を付けられている人があまりいないので、表情の変化をつけるのは難しいことなのだなと改めて思いました。
・Ｈさんの表情がとても良くて、子どもを引き付ける感じがしました。Ｉさんは、楽しそうにしているところが本当によかったです。
・Ｊさんの顔の表情が特に印象的で、言葉によって表情を変えているところが凄く良かったです。
・Ｌペアは、笑顔がとても素敵で、見ている方も自然と笑顔になれるし、自分たちが楽しんでやっているところが良かった。おむすびの中身の「すっぱい」「にがい」「あまい」を表情変えてやっているところが良かった。「まちがうちゃうね」は、「えっ」というところもどんどん大げさにしていくともっと良いと思った。

⑤動き・振り付け

・赤ちゃんを抱っこしているところが、手の動きが大きすぎてもう少し考えた方が良い。動きの「大きさ」も歌詞に合わせるとよい。
・動きに切れがあって、全体的に思いっきり表現で来ていてとても良かった。
・手のひらがくしゃっとなってしまって、見た目があまりよくないので、振り付けは大きく指先までピンと力を入れるようにした方が良いと思いました。
・拍手をする位置を目より上にした方がいい。下にあると、見えない。
・「ほっ」とするところは、もっと力を抜いていいと思った。また、指先まで力を入れてきっちりした方が、見た目が良いと思った。
・「うーん」「ぱっ」の動きは、メリハリがあってとても良かった。
・子どもが楽しむためには、一つ一つの動作をしっかりやることが大切だと分かった。
・笑顔で振り付けを大きくやっているのを見ると、自然と見ている方も笑顔になって真似したくなるので、実際に子どもの前で行う時も、まずは自分自身が楽しんでその場にいる人みんなが笑顔になれるように練習していきたいです。
・肘が伸びて動きが大きくても、指先まで伸びていなかったらきれいに見えない。本当に細かい部分まで意識しながらしないといけないので、難しいと改めて思った。発表を始める前も、前に立ったら見られているという意識を持つことを次回は気を付けたい。
・以前先生から指摘されたことを意識できている人とできていない人では差が出てきてい

ると思った。例えば、指先までしっかり伸ばしている人と伸ばせていない人がいるなど、細かい部分ではあるけど、注意しようと思う。

・振り付けは、歌詞によって大きくしたり、小さくしたりと工夫したが、もう少し極端にした方が良かったかなと感じた。子どもは小さい変化よりも大きい変化の方が喜んでくれると思う。まだ、体全体を使って大きく表現することが恥ずかしくて少しためらってしまった。

⑥視線

・目線は上を向いていたが、皆の方に顔ごと向けながら歌えば、もっと幼児は注目してくれると思う。

・歌詞によって、声や視線の方向も変えるのもポイントの一つだと分かった。

・私は人と話すのが苦手で、目を合わせることが出来ないので、普段の癖が発表の時に出ているのだと思います。これからなるべく人と話せるように努力したいと思います。

⑦表現の工夫

・歌い方が棒読みになっていたので、食べ物の名前の言い出し方を改善するともっと良くなると思う。

・物語性のある曲なので、もっと慌てた様子や怖がっている様子など表現に工夫が出来るのではないかと思った。

・工夫を取り入れたり、表現を変えたりして、楽譜を見てそのまま歌うだけではなく、自分のものにしていくことが大切だと感じました。

・Ｋペアの歌は、長崎の特徴に当てはめて、アレンジしているのが凄いと思った。歌をアレンジしたり、強弱をつけたりすることは、とても大切なことだと学びました。

・「くいしん坊のゴリラ」の accel.という記号は、だんだん速くという意味なので、意識してやると、メリハリがあり良いと思う。

・歌詞の内容に合わせて、声色や声量を変化させればよかったと思います。

・２歳児バージョンと５歳児バージョンのテンポが同じぐらいに感じました。しかし、同じ遊びでも、レベルに合わせた楽しみ方もあるのだと実感しました。

・少し工夫するだけで、子どもの興味をぐんと引き出すこともできるし、指導者が楽しそうにするだけでも、わくわくして見ることができる。子どもを飽きさせないように自分なりの工夫を入れることはとても大切だと分かりました。

⑧発表の仕方・話し方

・Ｍさんは、周囲を見渡しながらやっていて、とても堂々としてよかった。

・Ｎペアは、歌詞を途中で忘れてしまい、笑ってしまったが、子どもには通用しないので、間違っても笑わないようにしないといけないと思った。笑いと笑顔は別なので、きちんと区別をしなければいけないと思った。

・子どもたちと一緒に音楽遊びをするときは、一度お手本を見せてから行うことを学びました。音楽遊びを始める前にも気を付けることもあり、とても難しいなと思いました。

・自信をもって発表で来ている人と、少し不安そうな感じで発表している人といて、自信

をもって発表している人に、引き付けられます。私も、子どもたちの前で、集中してみてもらえるようになりたいと思いました。
・どうすれば、子どもたちにわかりやすく説明できるか考えるのも大事だと思いました。
・Nさんは、手遊びを始める前の話し方がとても上手だと思いました。子どもたちが、「やりたい」「どんなことするんだろう？」と期待するような始め方をすることは大切なポイントの１つだと思いました。

⑨２回の発表

・１回目の発表と２回目の発表では、子どもに喜んでもらうためにどうしたらいいか考えたり、友達の発表を見てどこを直せばいいか考えたりなど、見る力は大きく変化したと感じた。
・１回目と比べると、声量が出てきたり、動作が大きくなったり目線が周り全体を見渡していてよいなと思いました。
・２回発表をやったことで、いろんな手遊び歌を知り、自分には何が伸ばせて何が足りないのかということをわかり、少しでも成長できたので良かったです。
・２回目の発表は、１回目の発表と比べると、大分緊張せずに笑顔で歌うことが出来たので、慣れたら緊張しなくなることが本当なんだと実感することが出来ました。前回発表した時には、前列の人に視線を向けることが出来なかったけれど、今回は心に余裕ができ、視線を向けることが出来ました。
・皆の目にどう映ったかは分からないけれど、自分では１回目と２回目の発表では、中身の濃さは全然違いました。
・２回目の発表では、自分でも１回目よりもリラックスすることが出来ていることが分かって、のびのびと発表することが出来たと実感しています。他の発表の子も１回目よりも堂々とできて成長していて、皆で成長できているのを感じて私も嬉しく思いました。

⑩間

・間を大切にしている人は、次は何かなとわくわくしました。
・「はじまるよはじまるよ」では、１と１で何が出来るのかなと考えるのも楽しかったし、今回の発表でもうまく間を作り、考えさせるところが良かった。
・「ごんべさんの赤ちゃん」では、「くしゅん」の時に間がいい具合にあるのが良かった。
・Ｐペアは、「このくらい」の前に間を作って、子どもがどのくらいだろうと想像する時間を作ってあげることがポイントだと思いました。

⑪緊張・恥ずかしがること

・照れ笑いをしてしまった人がいたが、恥ずかしがっている姿は、見ている方は全く面白くないと思う。子どもに喜んでもらえるように、いつでも全力で活動できる先生になりたい。
・少し恥ずかしい気持ちが見えた人がいたので、もっとノリノリにすればもっと楽しいものになると思った。
・子どもたちを音楽遊びに注目させるためには、表情や声色、声の高さなどの様々な注意

するべき点があります。演じるまでとはいかなくても、恥ずかしい気持ちを捨て、ノリノリになるのはとても大切なことだと思いました。

・発表はとても緊張しました。練習の時にしっかりできていても、多くの人を前にすると、頭が真っ白になりました。これから、そうならないように人前に立つことに慣れるよう頑張ります。

・改めて、人がしているのを見るのと自分がやるのとでは全然違うことを感じました。声と手は震えるし、振り付けは飛びそうになるし、頭は真っ白になるし、思っていたよりも緊張しました。緊張しすぎて「楽しんで子どもと一緒にやろう」という気持ちを忘れてしまったことが凄く心残りです。本番は１回しかありません。その１回でいかに楽しくやることが出来るかが大切だと思いました。

⑫その他

・他の人の発表を見ることで、子どもの目線では、どういう所で興味を持ったり引き込まれたりするのかわかるので、声色や間、動作の工夫をうまくしていきたいです。

・ペアで同じ音楽遊びをしていても、全然違うということです。一人一人の表情や表現があって、正解はなくてみんな違う良さがあるなと感じました。取り入れるところはたくさん自分に吸収して、自分らしさを忘れないような発表が次回できればいいなと思います。

・手遊びの発表があると聞いた時に、初めは緊張するし、恥ずかしいし、嫌だなという気持ちしかありませんでした。だけど、自分がするだけでなく、人の発表も見ることで、４月の自分よりもより成長できた気がします。皆からのメッセージも、自信がついたり直すところがあったり、同じ夢を持つ仲間からの言葉をもらえたことが一番嬉しかったです。

6　考察

同じ科目の授業で２回発表の機会があることは、学生にとっては１回目に十分ではなかったことを改善して次に生かせる場があることや、他の人の発表を見て学んだことを生かせることが良かったようだ。特に、かなり緊張度が高い学生にとって、学生同士が見ても、人前で話すことや表現を発表することに、２回目では慣れていることがわかるようであった。

このことから、２回発表することで、自分や他人の成長がはっきり認識できたようである。

また、発表後すぐにビデオ録画を全員で見て振り返りをすることで、留意しなければならない視点がはっきりしたり、間違いに気づいたり自分が思っていたよりできていないことに気づいたりできた。

このことから、ビデオ録画をすることは、表現を客観的に見直すことが出来、改善し更に良くなるためには有効であると分かる。

歌声や声量については、それぞれの良さを生かしつつ、しっかり歌えることの大切さに気づいたようである。

このことから、歌に関して基礎的な技能を養う重要性が学生にもわかったようである。

まとめ

就学前教育の施設において、様々な場面で活用されている手遊び歌・音楽遊びの学び方について述べた。学生は、最初視線は下を向いたまま、歌声は遠くまで聞こえず聴いてつまらない。という状態の発表が１回目は続く。学生の提出ノートにも、４年生の発表を見て、自分はあんなふうにできるようになるのだろうかというコメントが多く書かれる。しかし、自分の良さや改善点を見つけ、仲間の頑張りを見て、だんだんと成長していく。さらに、主体的に練習に取り組み、仲間の発表を見て自ら考え工夫をすることで、表現力が高まる。

学生の中には、you tube で見た手遊び歌をそのまま表現する学生がいた。その場合には、楽譜と違う正しくない表現をすることが多い。楽譜を正しく読み込むことも大切なことを授業内で指導した。

また、手遊び歌・音楽遊びには、歌が必要不可欠であるため、歌が不十分だと表情や振り付けだけを頑張っても全体的に見ると後一歩である。一番必要なのは、歌えることである。そこで、コールユーブンゲンを使った歌の基礎的な取り組みが重要になってくる。

音程やリズムが安定していることや、声が良く響くことは手遊び歌・音楽遊びには重要な基本的技能である。そこに、声色や表情、指先まで行き届いた表現が出来るとさらに魅力的な表現になる。

今後、益々保育所・こども園・幼稚園と小学校との滑らかな接続は重要になってくると考える。どのような遊びがスタートカリキュラムに適しているかも研究する必要があると感じている。

引用・参考文献

⑴　渡辺　研　『教育ジャーナル７月号』(2017. 6 .19) 株式会社学研教育みらい　pp15-pp17
⑵　『幼稚園教育要領』(2017. 4 .25) 株式会社フレーベル館 pp 5 -pp 6
⑶　『幼稚園教育要領』(2017. 4 .25) 株式会社フレーベル館 p 6
⑷⑸　文部科学省（2017）『小学校学習指導要領比較対照表』http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384661_4_2.pdf（H29.11.29　閲覧）